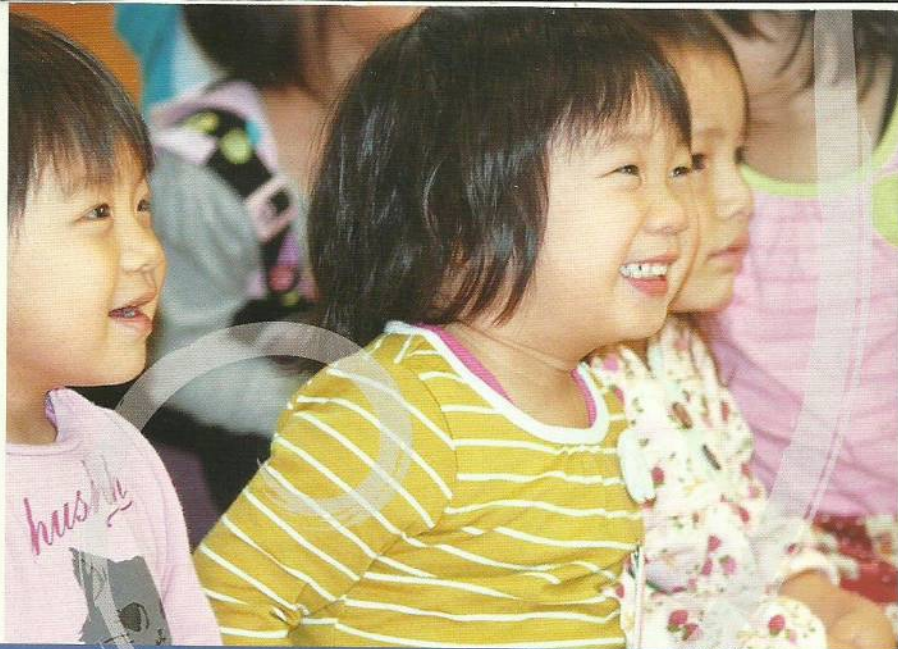




遠^{えんべつ}別町

遠別町町勢要覧
EMBETSU TOWN GUIDE

北海道北部、美しい日本海に面し黄金の稲田こがねが
広がる遠別町は海と大地がもたらす恵みを
守り育てながら住み継がれてきました。
そして今、「みんなで創る・えんべつ」を
合い言葉に、子どもからお年寄りまで
人が主役の新しいまちづくりが始まっています。



遠別町は「稲作の北限」「メロンの北限」として
質の高い農産物で知られ、また漁業では
「ホタテ稚貝の養殖」による生産拡大など、
北の地に住まいながらも人々は力強く営み、
いきいきと暮らすための工夫と努力を
重ねてきました。



いきいきと
リズム
里仁夢 あふれるまち

遠別町

EMBETSU

もくじ

3 いきいき **大地**のリズム
日本最北の米どころ

5 いきいき **潮**のリズム
対馬海流が育む豊かな漁場

8 いきいき **大地**のリズム
安心、安全、効率的な
農業生産

9 いきいき **人**のリズム
輝いて、未来を担う

13 特産物紹介

15 発信！里に住む夢

17 いきいき **四季**のリズム
えんべつ祭時季

いきいき **人**のリズム

19 遠別を支える楽しむ

21 観て遊んで親しむ

23 行政・議会

24 教育・福祉・健康

25 文化・スポーツ

26 国際交流・国内交流

27 遠別マップ

29 概要・沿革



いきいき 大地のリズム

日本最北の米どころ

北海道北部に位置する遠別町は、稲作の北限地帯として古くから盛んに水稲栽培が行われてきました。昭和57年にそれまでのうるち米からもち米へと転換し、現在では面積約450haのすべてがもち米となっています。耐冷性、収量性と食味に優れた品種を導入し、品質の良さとおいしさが高く評価されてコンビニエンスストアのおこわなどにも使われました。

遠別町が日本最北の米どころとして良質の米が生産できるのには理由があります。それは、一帯を流れる遠別川の水源が河口よりもはるか南に位置し、また日本海を流れる対馬暖流により気候が穏やかであること、そして米づくりに携わる人々がたゆまぬ工夫と努力を続けていることで遠別町は道内でも指折りのもち米生産地となっているのです。

冷涼な気候で クリーンな米づくり

遠別町の冷涼な気候は稲の病害や害虫の発生を抑え、低農薬、減農薬による稲作を可能にしています。更には堆肥製造センターにより作られた堆肥を投入することで循環型農業を行いながら、クリーン

日本最北の米どころ

遠別町水稲
研究所



写真上／越前から入植した南山仁太郎が3年に渡る試行錯誤の末、明治34年に稲作を成功させ遠別の水稲栽培の礎を築いたことから、その功績をたたえて建てられた碑（共栄地区）。

写真左／稲作北限の地、遠別町のなかでも最北部に位置する水田には「最北の米どころ」を誇る木碑が建てられている（清川地区）。



遠別町の稲作

明治30年	明治34年	大正10年	昭和46年	昭和57年	昭和58年	平成10年
開拓者の入植が始まる	南山仁太郎が稲作に成功	かんがい溝の竣工などで急速に水稻栽培が本格化	減反政策開始	うるち米からもち米へ生産品種の転換	もち米生産団地に指定 うるち米からもち米へ生産品種の転換	米穀乾燥調製施設「北限夢工房」が完成
		うるち米 農林15号、シオカリなど		おんねもち たんねもち		きたゆきもち 風の子もち はくちょうもち

遠別町で生産される米はすべてもち米。やわらかさが長持ちするのが特徴です。

Rice-Agriculture

Warm air currents from the Tsushima Strait mean the temperature in Embetsu remains mild despite its northern latitude, and this mild climates enables Embetsu to be the northernmost rice producing region in Japan. The cool climate also enables cultivation of rice with low or produced agricultural chemical use, and use of the compost made at the local manufacturing plant further reduces harmful emissions.

Embetsu also utilize rice drying and regulating equipment which sorts foreign matter from rice, ensuring the stable production of high quality rice to stable quality standards.

明治34年に稲作が成功してから、遠別町では水田の広がる風景が脈々と受け継がれてきました。しかし、生産転換による作付面積の縮小や米消費量の低迷、後継者不足など、農家にとっての現状は厳しさを増しています。これからの時代に多くの課題に取り組み、安心・安全でおいしいお米を作り続けるためには生産者と消費者、そして地域が協力し合うことが大切です。「最北の米どころ」遠別の魂を未来へとつないでいくことは、まちの重要な役割なのです。

未来へつなぐ遠別の魂

そのほか、地元産のもち米を使ってつくった地酒「北吹雪」は遠別の地場産品として広く流通しています。

ンな米づくりを展開しています。また、米穀乾燥調製施設である「北限夢工房」を平成10年に設立、異物混入を防ぐ色彩選別機も導入し、はくちょうもちを中心とした良質で安定したもち米の生産を行っています。

もち米生産で道内最優秀受賞

小林 繁幸さん

継続性を重視した“経営者”の米づくり

家業の農業を継いで、自分の代で規模を拡大してきました。今は水田が23ha、畑が30haで個人としては町内最大です。米作りは昔から苗半作と言って、苗作りが非常に重要。うちは町内でも少ないポット式で、これは苗が丈夫で育ちが早い方法です。それから安定した収量を確保するためにはいかに品質のバラつきを減らすかだけど、自分の目で稲を見て必要なら必要量の肥料や薬剤を与えています。あとは一台の農機で多くの面積をまかなえば、その分コストを抑えられる。農業だって会社と同じで、経営者として収支のバランスや効率化は常に気にしていますよ。一から米作りを軌道に乗せるには長い年月がかかります。それだけにこの地域で続いてきた水稻の地盤を支えていくことは我々の使命だと思います。





いきいき 潮のリズム

対馬海流が育む
豊かな漁場

遠別地域では基幹産業であるホタテ養殖をはじめ、タコ箱漁業、底建網漁業、ホッキ桁網漁業、各刺網漁業、サケ・マス増殖事業が行われています。特にホタテ養殖漁業では、採苗器に始まり、仮分散、本分散などを経て稚貝出荷となります。その他にも半成貝出荷、成貝出荷と年間通して事業を行っています。

遠別漁港は全国展開していた大手活魚業者が基地にしていたこともあり、道内でも早くから活魚出荷に取り組んできました。活魚を6トン以上収容可能な蓄養水槽が十基あり、ヒラメをはじめとした様々な魚種の活魚出荷体制が整っています。加工事業は漁協が直営で展開しており、タコやホタテの加工を行い、漁業生産額に並ぶ出荷額を上げています。

遠別漁港では衛生管理の徹底にも努めています。衛生管理マニュアルの遵守や直轄漁港漁場整備事業により漁港が整備され、屋根付岸壁、取水施設などが建設されました。それにより高度な衛生管理が可能となり、ホタテ養殖では活力の向上が図られ、鮮魚には滅菌水を使用し、より衛生的に出荷できるようになりました。



ホタテ貝の種苗生産

写真右/ホタテの稚貝はザブトンカゴや丸カゴと呼ばれる養殖カゴの中で、海中につり下げた状態で出荷に適したサイズまで成長させます。

写真左/生後1年程で直径約6cmに育った稚貝は、水揚げ後洗浄・選別され主にオホーツク海のホタテ生産地へ出荷されていきます。



漁師の皆さん

近海の魚やホタテは
日本海の荒波にもまれて
身が引き締まった極上の旨さ。
魚も漁師も、活きの良さは
どこにも負けないよ！



漁業協同組合加工場で働く
みなさん

浜の女性たちが中心になって
煮ダコやホタテ干貝柱を加工
しています。鮮度を保つために
手際良く、みんなベテランの
手さばきです。



毎年9月頃解禁となる秋鮭(おきあじ)漁。
大漁の水揚げに船上が沸き返る。

Fishing Industry

While octopus, sole, flounder and salmon represent important hauls for the fishing industry in Embetsu, scallop aquaculture is a key sector for ensuring year-round job security. Scallops are cultivated year-round and shipped to the Okhotsk and other regions.

Embetsu also has large-scale culture tanks which are used in the shipment of live fish such as flounder. The marine products processing industry is run directly by the fishermen's cooperative, and the amount of processed scallop and octopus shipments equals the output of the town's fishing industry.

遠別漁港では年間を通して多くの人が働いています。漁業者や漁協職員はもとより、ホタテ稚貝出荷時期（3月～4月）には、漁港全体で約300人が働くなど活気にあふれます。町内在住の人々に加え、町外から働きに来ている人もいます。年間を通じて作業のあるホタテ養殖や水産加工などは、若者の定着、女性や高齢者の雇用確保の場となると共に町の産業を支えています。

多くの人が連携し 主要産業を支える

遠別生まれのホタテが「名産ホタテ」へ
遠別漁港の水揚げ量の約7割を占めているのがホタテ稚貝の養殖です。稚貝養殖は水産資源の枯渇を防ぎ、安定した漁獲高を確保する資源管理型漁業です。遠別近海で育てられた稚貝はオホーツクなどホタテの名産地として知られる漁協へと出荷されていきます。

漁業年間スケジュール



遠別町の漁業は、季節や天候などに応じて漁獲対象を変え、その時期に最も適した方法で漁を行っています。また、ホタテ養殖やヒラメ・サケの稚魚放流など栽培漁業が盛んであることも特徴です。



潮のリズム

育て守る漁業

養殖 ホタテ

ホタテ養殖の一つであるホタテ稚貝生産では、海中に浮遊しているホタテの卵を採苗器で採取し、仮分散、本分散などの作業を経て、1年間で約6センチの稚貝に成長したものをオホーツク海側の5か所に出荷しています。出荷先では海上から地撒きされ、約4年を経てホタテ貝として出荷されています。遠別でも稚貝だけではなく、成貝（ホタテ貝）まで育てており、道内外へ出荷されています。

大切な海の資源を守る
持続型漁業に、積極的に
取り組んでいます。



放流

ヒラメ・サケ

遠別漁協では、水産資源を漁獲するだけではなく、資源保護や資源増殖という考えのもと、サケ稚魚放流（4月）、ヒラメ稚魚放流（9月）を行っています。

サケ稚魚は、真狩村で孵化した稚魚が遠別町に運ばれ、遠別川で4週間飼育され遠別川の水に慣らし、その後放流します。ヒラメ稚魚は年間約5万尾放流し資源保護に努めており、2〜3年後、漁獲し活魚として出荷しています。



加工

タコ・ホタテ・サケ

遠別漁協では平成12年に現在の加工場が建設され年間を通して操業し、タコ・ホタテ・サケを年間1、400トン加工しています。常時約20名が従事し、煮ダコにおいては前浜で水揚げされた原魚はもとより、北海道内日本海側より原魚を買付けし、加工からパッケージ、出荷までを一貫して行っています。タコのはかにもホタテ干し貝柱やサケの加工も行い、品質の高さと味の良さで高い評価を得ています。

付加価値を高める

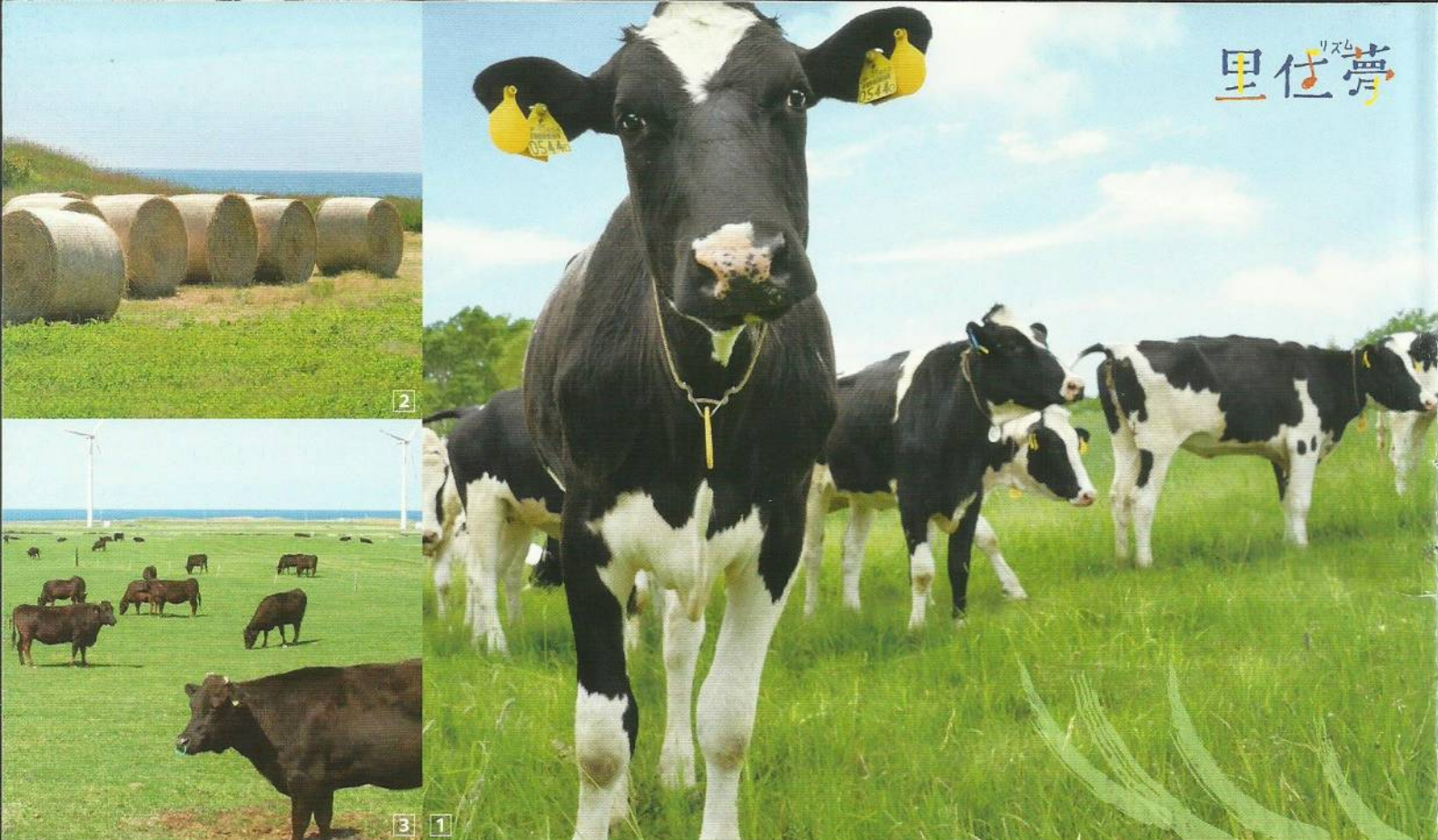
遠別漁業協同組合

白幡 広喜さん

活ヒラメの「遠別ブランド化」を目指して

私は父が漁師だったから、始めは別の仕事に就いたけど一念発起して漁師になった。遠別は漁業が盛んな割にあまり知られていなくて、何か企画をしたいと考えていたんです。そこで皆で始めたのが「ひらめ底建網オーナーin遠別」。天然のヒラメを活魚出荷できることも大きな売りなので。応募は全国からあつて年々増えているし、遠別の一大イベントになったことで漁師の士気も高まり良い循環が生まれています。他にも、商工会と連携して「遠別産ヒラメブランド化研究会」を組織し、新しいメニュー開発など通年でPRできる方法を模索しているところなんです。『遠別のヒラメ』をどこまで伸ばせるか挑戦していきたいですね。





いきいき大地のリズム

安心、安全、効率的な農業生産

自然環境に恵まれた遠別町では、畑作にも力を入れており、主に小麦、大豆、甜菜など冷涼な気候にも適した作物を中心に栽培されています。近年、農業従事者の高齢化や後継者不足が進んでおり、豊かな農用地を守るため農業生産法人の参入や共同化が行われ、栽培面積の大規模化や生産性の向上など、効率化が図られています。

また、近年では安心・安全な農作物が求められるなかで、ホウレンソウ、カボチャなどでは有機栽培による生産も行われています。

広大な大地で営まれる畜産業

町の面積の88%を占める森林と、日本海に挟まれた広大な草地ではミネラル分を多く含んだ栄養価の高い牧草が生産されています。また、約2、600頭の乳牛が広い大地でゆったりと牧草を食み、良質な牛乳がつくられています。

肉用牛については約1、400頭が飼育されています。黒毛和牛をはじめ、飼料にウコンを導入したウコン牛などブランド牛としての取り組みも展開されており、ストレスの少ない環境で良好な肉質の牛を生産、販売しています。

町の畜産業全体では事業計画をもとに安定した牧草の生産と品質向上、家畜の飼料自給率の向上を目指しています。同時に、牛肉の自由化や生乳の生産調整に対応できる畜産基盤づくりにも重点的に取り組んでいます。

Agriculture in Embetsu focuses on producing crops that are suited to the cool climate, such as wheat and soybeans. In recent years, agricultural product corporations have emerged which are increasing production efficiency and expanding production to include organically grown spinach and pumpkins.

Embetsu also has extensive pastures in that produce feed crops rich in minerals. Approximately 2,600 dairy cattle and 1,400 beef cattle are reared in this low-stress environment, resulting in high quality meat and dairy produce.



写真①/ストレスの少ない環境で放牧されている乳牛

写真②/遠別町の畑作は8割ほどが牧草畑となっている

写真③/海風を受けた牧草を食べて育つ黒毛和牛

写真④/道内でも生産量の少ない紫アスパラは全国へ出荷される

写真⑤/秋には畑も収穫最盛期を迎える

いきいき 人の リズム

高らかに響け、成長の音

未来を築いていく子どもたちや若い世代は、地域の宝であると共に地域に守られ育てられる存在です。人と人とのつながりを大切に、健やかな人間性をはぐくむ環境が遠別にはあります。そして、子どもたちの元気な笑顔に、地域もまたエネルギーをもらっているのです。



輝いて、未来を担う

認定こども園(幼保二元化施設)

幼児センターきらり

幼児センターきらりは北海道から「認定こども園 保育所型」の認定を受けた保育・教育施設で、就学前であれば保護者の就業状況等に関わらず利用することができます。広々としたホール内や園庭で、子どもたちは明るく元気いっぱいに過ごしています。また、学校給食センターとの共用によって全園児に完全給食が提供されています。

施設内には子育て支援センター・学童保育室を併設し、遠別町の子育て支援の中核施設として大きな役割を果たし、保護者からも高い信頼を得ています。

園外活動も盛ん

野菜の収穫作業や花植えなど、町内の小学生、高校生との合同行事や地域の大人たちとの交流を通じて、情緒や自己表現の幅を広げます。



のびのびした環境でみんな一緒に遊ぶから、元気で明るい子たちばかり。集団生活の中で思いやりのこころを育みます。



給食にも配慮

地元の食材を取り入れるよう努め、安心・安全な給食を提供しています。

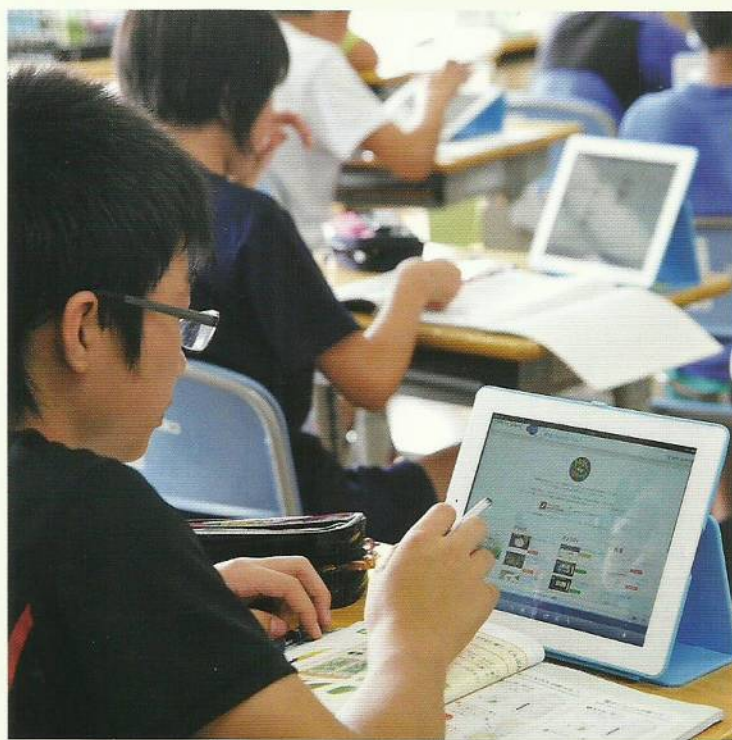


遠別小学校

みんな笑顔でひとみ輝く元気な学校

小学校の統廃合が進み町内で唯一となった遠別小学校では、子ども一人ひとりに目が行き届く教育を方針に掲げ、自主性を重んじ地域との連携を大切にする学校づくりが行われています。また、タブレット端末や電子黒板などを使った先進的な授業方法も積極的に取り入れ、学習への興味と意欲を育てることで都市部に劣らない理解力や基礎力を身につけることを目指しています。

ICT(情報通信技術)を活用した授業の一環として、全生徒にタブレット端末を貸与。インターネットで調べたり、動画で学習するなど理解の向上に役立っています。



「遠別町クリーン作戦」の日はみんなでまちのゴミ拾いをします。町の中がきれいになるとうれしくなります。



Embetsu is a town where people treasure the relationships that connect them, and has an environment where children are raised with healthy bodies and minds. Kirari, our certified preschool, provides provide spacious areas where children can enjoy playing together. In Embetsu Elementary School, the town's only elementary school, advanced teaching techniques using technology such as iPads and electronic blackboards are used in classes to further increase children's motivation and interest in learning.

いさ人のリズム

輝いて、未来を担う

人と人との絆、
社会に出るための基礎を学ぶ

遠別中学校

遠別中学校では「心の教育」を重点に、人と人とのつながりや関わり方を学び、社会に出るための基礎を身に付けることを目指しています。また、学力の向上を大きな取り組みの一つとし、一つの教室に複数の教師が入り、生徒の習熟度に応じて個別指導も行うチームティーチングや、全校生徒にタブレット端末を導入し、情報通信技術を活用した授業など、自ら学ぶ意欲を高める学習に取り組んでいます。

Embetsu Junior High School places priority on "education of the heart", and aims to be a place where students build a strong foundation for their future immersion into society. Emphasis is also placed on methods such as team teaching for increased academic development.



生徒たちが行っている除雪ボランティア活動。地域貢献や奉仕体験の一環として、高齢者宅などで一生懸命に雪かきをします。

遠別農業高等学校

幅広く地域と関わる独自のカリキュラム

日本最北の農業高校で、特色ある教育課程を編成し、生産・加工・流通の各分野を担える産業人を育てています。授業においては農業生産や食品加工に関する専門科目を充実させ、「身につく」教育に重点を置いています。また、近年は少子化などに伴う生徒数減少傾向に歯止めをかけるため、「遠農高活性化プロジェクト」に取り組んでいます。生徒たちも町内の様々なイベントに積極的に参加しており、地域の活性化には欠かせない学校となっています。

Embetsu Agricultural High School has formulated a unique curriculum with specialized subjects such as agricultural production and food processing. The school places great importance on local ties through activities such as students selling foods that they have manufactured themselves in the "Ennouke Marche" satellite shop and at various events, and holding harvesting classes for elementary school students. In recent years, the school has become actively engaged in the "Embetsu Agricultural High School Activation Project", in which the school and local area cooperate to support school activities.



地域交流

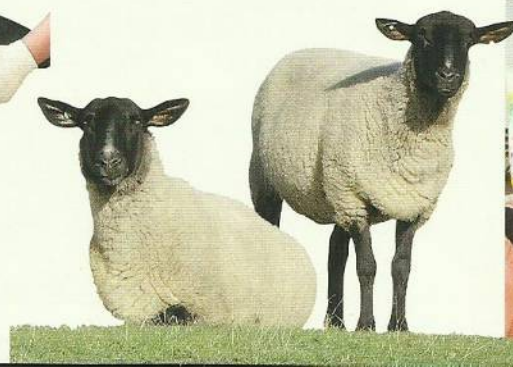
町内外のイベントへ出店し自分たちの商品を積極的にPRしたり、幼児や小学生との収穫実習を行うなど地域に欠かせない存在です。

遠農高マルシェ

敷地内でアンテナショップ「遠農高マルシェ」を定期的に営業。生徒自らが製造から販売まで手がけるカレーやソーセージ、パンなどの加工食品や、高校の畑で収穫された野菜などが人気を呼んでいます。



羊の毛刈りや出産など
生き物の世話は大変
だけど、とても
やりがいがあります。



元気な「遠別人」を訪ねて

安全で新鮮な自家産野菜を販売

フレッシュ市場「花菜夢」

代表 松澤 米子さん

農家のお母さんが集まって

日差しに暑さを感じる6月の日曜、道の駅「富士見」敷地内に設けられた直売所で、今年も野菜を売り買いする元気な声が行き交います。フレッシュ市場「花菜夢」と名付けられたこの直売所は平成14年に始まり、今では遠別の夏から秋の顔として日曜日の開店を心待ちにする人も多くいます。

「花菜夢」はJAオロロン女性部遠別支部の有志17名がそれぞれ自分の栽培した野菜などを持ち寄って販売、すでに13年継続しています。二代目代表の松澤さんは言います。「最初は15人で始めました。うちは



6月～10月の日曜に開かれる「花菜夢」には、朝どれの野菜や手作リジャムなどを求めて多くの人が訪れます。

米農家だから野菜作りは手探り状態でしたけど、やってみていくうちにどんどん楽しくなっています。農家のお裾分け感覚だったのが、この市場のためにハウスを増やしたり本格的に作るようになった人も多かったです」。

売る楽しさと責任感が原動力

現在メンバーの平均年齢は60歳を超えましたが、当初の15名は全員活動を続けています。「初代代表の熊田春子さんは今も現役バリバリですよ。一番多く品物を出してるかもしれません」。長く続けてこられた理由については、「お客さんに、おいしかったよ」と言ってもらえるのが何より。それとだんだん責任感も大きくなってきて。お客さんに対しても野菜に対して、良いものを作ってお店に出したい、中途半端なものを出せない、と思うようになりました」。

より良い「お店づくり」のために

精力的な活動が認められ、平成23年には〈女性・高齢者チャレンジ活動表彰〉の北海道最優秀賞を受賞しました。メンバーの経営意識が高まり、次第に取扱う種類も増えてきたことからバーコードによる商品管理を始めました。また栽培や会計の勉強会を開



商品には生産者の名前が記載されているので、お客はつくり手をより身近に感じることができます。

き、できるだけお客様の要望に対応する姿勢など、常に向上心を持った活動を行っています。

子どもたちにおいしい野菜を

地元で親しまれ定着した「花菜夢」では新たな一歩として子どもたちへの食育に関心を寄せています。「今も学校給食にとれたての野菜を提供しているんですが、もつと子どもたちに畑とふれ合って欲しいです。野菜を育てる手間は大変だけど、その分おいしさが違いますから。それを教えてあげたいですね。けれど私も畑から教わるのが今もたくさんありますよ。野菜作りは毎年一年生と思っています」。



遠別漁業協同組合職員
(元・遠別町地域おこし協力隊)

浪川 太一さん

地域おこし協力隊活動を経て町内定住へ

以前は岩見沢市で働いていましたが、縁があり遠別町を何度か訪れるうちに住んでみたいと思うようになりました。そんな時に地域おこし協力隊の募集を知り、「これだ」と思って応募しました。協力隊の活動は高齢者支援など町内の方々と直に接する機会が多く、自然に人とのつながりが増えていきました。実際に住み始めてみると田舎の不便さを感じず、むしろ素朴で大らかな土地柄に惹かれていきました。

今はこちらに家族もできて、漁協の水産加工場に勤務しています。協力隊としての活動があったからこそ、スムーズに地域に馴染めたのかなとも思います。もし遠別町に移住を考えている人がいたら、自分の経験を生かして何か応援できたらいいですね。





ホタテ加工品

Processed scallop

旨味が凝縮された干貝柱やソフト貝柱は出汁やおつまみにぴったり。直売所でも人気の商品です。



ホタテ

Yesso scallop

1年を通して味わえるホタテは、貝柱が大きく冷たい海で身が引き締まっています。また稚貝の出荷は春先で、味噌汁などにすると美味。



サケ (アキアジ) Salmon

身のしまった鮭は秋の味覚の王様。水揚げされた鮭は鮮度抜群で、脂ののった身はもちろんのこと、筋子やアラまで幅広い食べ方で親しまれています。

地場そだちは 格別の味

四季のリズム

煮ダコ

Boiled octopus

水揚げされた大きなミズダコは、すぐに浜ゆでして旨味を閉じ込めます。その大きさと味の良さにファンの多い商品です。



遠別銘菓

Embetsu famous confectionary

町内に3件の菓子店があり、それぞれにこだわりある商品が店頭に並びます。いずれも昔ながらの手仕事で仕上げた、やさしい味わいのお菓子です。

新登場!!

遠別B級グルメ

まるごと遠別コロッケ

"Marugoto Embetsu" Croquette

第1回えんべつB級グルメコンテストでグランプリを受賞したのが「まるごと遠別コロッケ」。サクッと揚がった衣に、地元特産のホタテとタコの食感がたまらないおいしさの遠別新グルメです。

中にはホタテ貝柱まるごと1個とプリプリのタコがごろっと入っています。



まるごと遠別コロッケ

遠別町のマスコットキャラクター「モモチん」でまちをPR。

遠別のマスコットキャラクター「モモチん」



えんべつメロン

Embetsu melon

国内最北のメロン生産地として、赤肉と青肉の「えんべつメロン」が作られています。どちらも果肉がジューシーですっきりとした甘さです。



もち米

Glutinous rice

主な品種である「はくちょうもち」はやわらかさが長持ちするため、もちや和菓子の他コンビニのおこわなどにも幅広く使われています。



遠別のおいしい野菜と果物でつくりました。

地元で収穫し加工したジュースやジャムは、野菜や果物が持つ自然の甘みがぎゅっと詰まった旬の美味しさです。

◀ジャム

農家のお母さんたちが一つずつ心を込めて手づくりしているジャム。いちごもハスカップも遠別産です。



▼北の赤いずく

遠別産の「アイコ」という品種のミニトマトだけを使って作った無添加のトマトジュース。砂糖不使用でも甘みが濃いのが特徴。



北吹雪

Sake 'Kitafubuki'

遠別産のもち米「はくちょう」を100%使って仕込んだ純米酒。日本酒の原料としては珍しいもち米ですが、優しい香りとまろやかな口当たり仕上がりになっています。

遠別旅情



しらかば

大納言羊羹

発信!

里に任む夢

道北の小さなまち、遠別町。このまちにある
「ここだけの魅力」をもっと知って欲しい、知
ればきっと遠別を好きになる。地域が主体と
なつて遠別の良さを発掘・発信し、人を呼び込
む取り組みが実を結び始めています。



参加者の感想

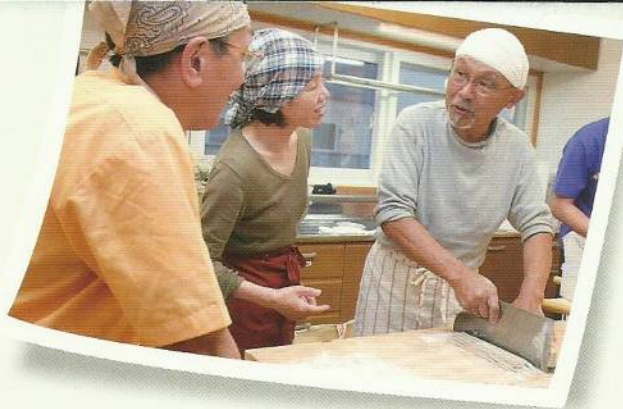
すばらしい体験に感謝

大阪府 小林さん夫妻

移住体験利用者の宿泊施設は、日常消耗品もすべて備え付けられており快適な住まいでした。又、すみずみまで掃除が行き届き気持ちよく生活することができました。お世話になった担当の方には大変親切にしていた頂き、本当に嬉しかったです。短い期間ではありましたが、パークゴルフをしたり図書館で本を借りて読んだりとゆっくり過ごすことができました。食べ物もおいしく、毎日料理するのが楽しかったです。最終日の前日はすばらしい夕日と利尻富士を見ることができ感激致しました。すばらしい移住体験ができたことを嬉しく思っております。



移住コーディネーターと小林さん夫妻



年間利用者数

112名

※1 道内83の市町村中
2位

遠別町移住交流支援センター
(愛称:ぴーぶる)

移住体験希望者の宿泊施設と職員事務所を兼ねた施設。キッチン、バスや生活家電などの設備が整っており自由に利用できます。



※1 平成26年3月現在
※2 平成25年4～9月実績

blog ▶ <http://enbetsupower.wordpress.com/>

魅力ある体験プログラム

滞在中にまちの魅力や北海道の素晴らしさをより実感できる体験プログラムを用意しています。プログラムの種類は「農業体験」「そば打ち体験」「パークゴルフ」などで、地域おこし協力隊や移住コーディネーターが付き添い、楽しく過ごせるようにナビゲートします。遠別での思い出づくりにと移住体験での利用率は高くなっています。

町では、気軽に遠別の暮らしを知ってもらえる移住体験に力を入れています。体験者は専用施設に1日千円で宿泊しながら、遠別の魅力を楽しむ体験プログラムに参加したり、地元の人々と交流したり思い思いに過ごします。利用は道外からが多く、関東や関西から家族で訪れる人に特に好評です。

遠別移住体験

遠別の魅力を伝える取り組み



農業体験

農業のおもしろさを伝えたい

私たちの食べるものがどうやって作られているのか、農業体験ではそれを最も実感することができます。体を動かす大変さがありますが、同時にいのちの尊さや食の安全、苦労した後の喜びなどに気づかせてくれるのが農業なのです。

遠別町の基幹産業である農業。畑作業や家畜とのふれあいを通じて農業に興味を持つきっかけとなることを目指し、平成25年度に始まりました。作物の収穫や子牛のミルクやりなど、未経験者にも参加しやすいメニューとなっています。

Projects and events are actively promoted and held so that people from outside the town can discover the many charms of Embetsu. Every year, an increasing number of people are becoming involved in our relocation experience project in which participants live for a short period in the town and interact with local people, and the "Seabed Flounder Net Owner in Embetsu" event in which people living outside Embetsu can sponsor flounder fishing nets and receive some of the catch from that day.



ひらめオーナー



毎年多くの希望者が募る人気企画に

大物に当たるかも知れない期待感や、天然ひらめの質と鮮度の良さなどが人気を呼び、日本全国から応募が来る企画となっています。オーナーは希望すれば当日の漁に遊漁船で同行し漁の様子を間近で見られることもでき、滅多にない経験ができるのも人気の理由です。

平成20年に第1回が開催され、以後毎年6月に港を賑わすこのイベントは、ひらめの漁獲量を競い、それを山分けする権利を得るものです。全国から募ったオーナーには水揚げされたばかりのひらめが発送されます。また、イベント当日は地元名物や飲食のテントなどが並び、近隣市町村からも多くの人出で港が活気にあふれます。

ひらめ底建網オーナーin遠別

萌

春になると、暖かな風と日差しを合図に、草花が大地を彩ります。

えんへつ 祭時季



金浦原生花園のエゾカンゾウ (6月-7月) Kanaura Natural Flower Garden



山菜まつり (5月)
Wild vegetable festival



富士見ヶ丘公園の桜 (5月中旬)
Cherry Blossoms in Fujimigaoka Park



パークゴルフ場オープン (4月下旬~)
Park Golf Course



盛

夏は市内の祭りやイベントが白熱し、遠く町外からも人が集まって遠別に活気があふれます。

みなくろびーちオープン記念ビーチバレーボール大会 (7月)
Beach Volleyball Competition at Minakuni Beach



遠別神社祭 (7月中旬)
Embetsu Shrine Festival



消費者還元商工夏まつり (8月上旬)
Commerce and Industry Summer Festival



行灯仮装パレード・仮装盆踊り大会 (8月中旬)
"Bon Odori" Traditional Dance Competition

ひらめ底建網オーナー
in 遠別 (6月中旬)
Seabed Flounder
Net Owner
in Embetsu



豊

稲穂が黄金色に敷きつめ、銀鱗の鮭が水面に輝く
秋は収穫の忙しさと共に過ぎていきます。



遠別川沿いの紅葉 (9月～10月) Autumn Colors on the Embetsu Riverbank



町民文化祭 (10月下旬～11月上旬)
Townspeople Culture Festival



稲刈り (9月下旬～10月中旬)
Rice Harvesting



鮭が遠別川を遡上 (9月ごろ)
Salmon Ascent



農業まつり (8月下旬～9月上旬)
Agricultural Festival

凜

白に包まれた静寂の世界の中でも、人々は集い、
笑顔を交わし合って春を待ちます。



富士見ヶ丘公園の冬景色 Snowscape in Fujimigaoka Park



きらりもちつき (12月中旬)
Rice-cake Making at Kirari



子どもスキーの日 (2月)
Children's Skiing Day



遠別冬まつり (2月)
Embetsu Winter Festival

商 遠別商工会

遠別商工会は、地域の暮らしに根ざし町民の生活を支える役割を担っています。

通い続けてもらえるお店を

豊富な種類の和洋菓子が並ぶハヤシ屋野村菓子舗は、昭和6年創業で、現在は3代目の野村政司さんと跡継ぎである崇文さんの2人で店を切り盛りしています。お店の看板商品は、稲作の北限・遠別に相応しく、米俵をかたどった「たわら最中」。遠別を代表する銘菓の一つでもあり、遠方からわざわざ買い求めにくるお客さんも珍しくありません。「うちは豆を仕入れて餡から作っているんですよ。最近は餡の状態で仕入れる店が増えているんだけど」。創業当時から伝わる昔ながらの製法にこだわりながらも、味を守るため材料の仕入れ先を厳選するなど、通って来てくれるお客さんのために努力を惜しみません。その味の良さ、そして気さくな接客で、他愛のない会話がはずむこともリピーターが多いことにつながっています。今後については「まず4代目として味を受け継ぎながら、将来的にはネット通販もやってみたい」と意欲的に語ってくれました。



バリエーション豊かな商品



たわら最中



ハヤシ屋野村菓子舗
野村 崇文さん

元気な遠別のために

近年のB級グルメの人気を受けて、遠別でも新たな食で地域おこしをしようと平成24年に「えんべつB級グルメコンテスト」が行われました。62件の応募があり、3度の審査の結果、地元名産のタコとホタテを使った「まるごと遠別コロッケ」がグランプリに選ばれました。翌年、その商品化の中心となって携わったのが穀蔵さんです。「何としてでも遠別の美味しい名物を作りたい」との思いで、商工会女性部のメンバーで試作品づくりに取り組みました。タコとホタテの食感を出すことに苦労しながら試行錯誤を重ね、完成した「まるごと遠別コロッケ」は、札幌や旭川の食のイベントに出品し、好評のうちに次々と完売。穀蔵さんは「完売したときは、努力が報われた思いで感動しました」とその喜びを振り返ります。今後は、手間やコスト面等の問題をクリアしながら販売を軌道にのせ、「遠別町の名前と名物コロッケを広く知ってもらいたい」と抱負を語ってくれました。



コンテスト審査の様子



まるごと遠別コロッケ



遠別商工会女性部部長
穀蔵 千恵子 さん

い
い
き
人
の
リズム
遠別も
笑える
お祭り

Embetsu Commerce and Industry Association supports the activities of people living in the local community. Takafumi Nomura is the fourth generation owner of Hayashiya Nomura Confectionery, and works with his father to manufacture "Tawara Monaka", Embetsu's most representative confectionery. Chieko Kokuzou has commercialized Embetsu's newest local delicacy called "Marugoto Embetsu Croquette" which is sold at various events throughout the year.

撮

動物写真家 泊 和幸さん



遠別町出身の泊和幸さんは、高校生の時に野鳥の美しさに魅せられ、以来本業である農業のかたわら遠別町の野生動物を主に撮り続けて40年以上。平成22年には写真集「鷺たちとボクの30年」が出版され、札幌と旭川での写真展では、動物たちのいきいきとした一瞬を捉えた写真が人気を呼び、展示が延長となる会場もありました。

また遠別町広報誌の表紙もたびたび飾り、広く町民にもなじみのある人物となっています。



ジュニアダンスクラブ

平成24年に結成され、未就学児から小学生までの子どもたちが3つのチームで参加しています。日頃の練習の成果は町内のイベントなどでお披露目。可愛らしいながらも息の合ったキレのあるダンスに観客から拍手と声援が贈られます。



舞

YOSAKOIチーム 燕^{えん}

平成9年に結成されたよさこいチーム。「燕（えん）」には遠別の遠、宴、演、円などの意味も込められており、楽しく元気に踊ることをモットーとしています。町内だけではなく道内各地のイベントでも鮮やかな舞を披露しています。



咲

花いっぱい運動



遠別町の花いっぱい運動は、花を植えることで景観の美化と、明るく・住みよいまちづくりを目的として始まりました。毎年6月～10月の運動期間には施設の花壇をはじめ、各家庭や国道沿いのプランターに町民みんながボランティアで花を植えています。農業高校の生徒たちも授業の一環として福祉施設の花壇づくりなどを毎年行っています。

People who enjoy an active life in the town through the pursuit of various hobbies and group activities bring the whole area to life. Amateur wildlife photographer Kazuyuki Tomari has been photographing wild animals in the town for over 40 years, and has had many of his photographs featured on the cover of the town's public relations magazine.



体を芯まで温めるオレンジ色の湯（旭の湯）と、つるつる美肌効果のある黒褐色の湯（富士見の湯）の2つの泉質が楽しめます。



旭温泉

Asahi Hot Spring

周りを山と木々に囲まれ、木造りの外観が秘湯の雰囲気漂う温泉宿です（日帰り入浴可）。改装後の浴室は清潔で露天風呂も完備。泉質には定評があり、地元住民からはるばるの遠方客まで、くつろぎの場として親しまれています。

Surrounded by trees, the wooden exterior of this hot spring hotel creates a relaxing, secluded atmosphere. Enjoy relaxing in two types of natural hot spring.



みなくるビーチ

Minakuru Beach

河川公園に隣接する海水浴場は、防波堤により波が穏やかで、親子連れにも安心です。毎年海開きに合わせてビーチバレーボール大会が開かれ、白熱した試合が繰り広げられます。

Located next to River Park, Minakuru Beach is protected by breakwaters which create only gentle waves.

金浦原生花園

Kanaura Natural Flower Garden

国道232号沿いの海岸にほど近い一帯にあり、6月から7月にかけてエゾカンゾウの鮮やかな黄色い花が一面に敷き詰められます。遊歩道もあり花園の散策や写真撮影に人々が訪れます。

From June to July, the entire area of the natural flower garden is covered in beautiful yellow Ezo-kanzo (wild lily) flowers.



えんべつを 観て 遊んで 親む



富士見ヶ丘公園

Fujimigaoka Park

広大な敷地をもつ公園内にはキャンプ場やケビン、パークゴルフ場などが整備され、体と心のリフレッシュにぴったりです。また、春には桜のスポットとしても賑わいます。

This huge park features various facilities including a camping ground, cabins and a park golf course.



直売所は4月～10月末までの営業となります。

道の駅富士見くんとがりかん>

Roadside Station "Fujimi"

遠別川をはさんで市街の南に建ち、ランドマークの役割もしている道の駅「富士見」。その駐車スペースの一角には特産物直売所や食堂もあり、人と人を結び遠別の魅力を発信する拠点となっています。

Roadside Station "Fujimi" is a place where locals and visitors can meet, and is the focal point for publicizing the charms of Embetsu.

遠別川

遠別市街



河川公園

River Park

遠別川河口の敷地に作られた潮風を感じる公園。海岸を臨む園内のシンボル「夕陽のモニュメント」から見る、海に沈む夕陽は胸に差し迫る美しい光景です。

River Park is a park created in the area around the Embetsu River estuary, and features the "Setting Sun Monument" as its main symbol.



行政・議会

ごあいさつ

遠別町は、明治30年（1897年）を開基とし、先人たちが北・北海道の厳しい自然の中で、さまざまな困難を克服して築き上げ、昭和24年に町制が施行され、平成9年（1997年）には開基100年を迎えました。

平成17年度（2005年度）においては、自主自立のまちづくりを進めていくうえで、必要な「自治基本条例」を制定しております。

今後も、これまで育んできた自然環境など当町を構成するさまざまな資源を生かすとともに、誰もが暮らしやすい快適な「子や孫に安心してつなげる時代、町をつくる」ため、町民と行政が一体となって「人・自然・心・健康を大切にするまちづくり」を目指しております。

この要覧で、当町の自然や人々の暮らし、さまざまな分野の最新の町勢、そして日本最北の米どころ「遠別」を知っていただければ幸いです。

遠別町長 笹川 洸志



Words from the Mayor

Embetsu was founded in 1897, and our ancestors overcame many hardships to build this town in the harsh natural environment of Hokkaido in northern Japan. Embetsu received town status in 1949, and celebrated the centennial anniversary of its founding in 1997.

In 2005, fundamental regulations necessary for self-government were established in an effort to develop Embetsu as autonomous and independent community.

In future, in addition to making use of Embetsu's various existing resources, such as its natural environment, we aim for our citizens and government to work together on community development measures that "place importance on people, nature and our citizens' hearts and health", to "build an era and a town where everybody can live comfortably and that we can pass on to our children and grandchildren with peace of mind."

We have published this town profile to introduce you to the various aspects of life in Embetsu, Japan's northernmost rice-producing area, such as the nature, industry and current conditions. I would be pleased if this brochure helps you to better understand Embetsu.

Koushi Sasakawa, Mayor of Embetsu



副議長

寺崎 邦昭



議長

千葉 光悦

議会

定例議会や委員会活動などを通じて、町民の意向を行政に反映させるための働きかけや正しく町政が行われているかのチェック機能を担っています。

Assemblies

We hold regular assemblies and carry out committee activities as efforts to reflect what our citizens want in our government activities and as a means of checking how the town is being run.



教育長

長田 昭



副町長

野々村正樹

Government

We govern Embetsu in a way that reflects the voices of our community, such as improving services for residents, to make Embetsu a better place for all of our citizens to live.

行政

すべての町民にとって住みよいまちを目指し、人口減少への対策と住民サービスの充実を重点に、地域の声を反映した多角的な取り組みを進めます。

子どもから高齢者まで **いきいき** 暮らすまち

教育・福祉・健康

教育

地域に根ざした教育を推進し、感動する心や思いやりの心を養い、人に優しく心身共に健やかでたくましい人を育てる教育に取り組んでいます。また、全ての児童生徒にタブレット端末を貸与し、高度情報化社会に対応していく情報教育の充実を図っています。

北海道遠別農業高等学校は、高い専門性を持つ職業高校の特色を生かし、地域密着型の魅力ある学校づくりを行っています。



Education

We work to provide community-rooted education that fosters a sense of compassion for others and that enriches and strengthens pupils' minds and bodies. We also provide every pupil with a tablet computer to provide better education in information technology.



遠別農業高等学校



遠別中学校



遠別小学校

高齢者福祉

特別養護老人ホーム「友愛苑」を中心とした施設介護、訪問介護などのホームヘルプサービス、包括支援センターを中心とした各種介護相談、緊急通報システムの導入、温泉券や無料乗車券の交付など多様な高齢者サービスを展開しています。さらに介護保険の適用とまらない高齢者に対しても、介護予防や高齢者自立支援事業など独自のサービスのほか障害者等を含めた共生型サロンの開催など、高齢者や障害者等を支え合う安心で快適なまちづくりを行っています。



地域介護の拠点である友愛苑は、平成24年に増床しさらなるサービスの向上に努めています。



特別養護老人ホーム 友愛苑

健康・安全

誰もが健やかに暮らせるまちを目指し、各種検診の自己負担を無料にするなど独自の取り組みをしています。また遠別町消防庁舎は平成24年に新築され、地域の防災・救急拠点として暮らしの安全と安心の向上が図られています。



町立国保病院



消防庁舎

テレビ電話で地域をつなぐ (双方向告知通信システム端末)

光ファイバーを使ったテレビ電話を全戸に設置

高齢者の多い遠別で、必要な情報を届けるためのインフラ整備をしています。町全域に光ファイバー網を整備し、全戸にテレビ電話 (IP 告知端末) を無料貸与しています。この端末へ防災情報や役場・学校などからの地域情報が随時配信されるほか、町内の端末同士で無料通話が可能です。



えんべつひかりタウン

テレビ電話の利用促進を目的とした独自の情報サービスで、製作・運営は地域おこし協力隊が手がけています。リサイクル掲示板や求人情報、簡単なゲームなど7つのコンテンツがあり、誰でも気軽に閲覧、利用ができます。



Welfare and Health

We offer various care facilities including Yuai-en, our special nursing home, as well as home help services. We also provide unique support services for senior citizens, such as preventive care and support for independent living. Various medical examinations are available free of charge for all of our citizens to help them stay healthy.

心も体も **いきいき** するまち

文化・スポーツ

地域の文化・学習拠点 生涯学習センター「マナビ・21」

生涯学習センター「マナビ・21」は地域の文化拠点、学習・交流の場として平成8年に整備されました。施設内に多目的ホールや会議室、調理室などを完備。約30の文化サークルの自主的な活動をはじめ、町民文化祭、町民大学、芸術鑑賞会などの催しも行われています。

また、図書室も設置されており、約2万冊の蔵書が町民の学習や読書活動に役立てられています。



マナビ・21 多目的ホール



町民文化祭



図書室



生涯学習センター マナビ・21

Culture

The Lifelong Learning Center "Manabi 21" was constructed in 1996 as a place of culture, learning and exchange for local people. Approximately 30 cultural clubs use the facilities, and events such as the Town Cultural Festival and Town University are held here.

多彩な運動施設で スポーツに親しむ

町民が生涯を通じてスポーツに親しむことができるよう、平成2年に「さわやかスポーツの町」を宣言しました。そして、スポーツセンターをはじめスポーツ公園（野球場・ゲートボール場、パークゴルフ場、運動広場）、プール、屋内運動場、スキー場などを整備し、各種教室や大会を開催しています。また、体育協会、スポーツ少年団などの団体やスポーツサークルにより、いろいろなスポーツを楽しむ自主的な活動が活発に行われています。



B&G海洋センター



幸和スキー場



すば一く遠別（屋内運動場）



スポーツセンター



スポーツ公園（野球場）



遠別イーグルス



エンベツふれあいマラソン大会

スポーツを通じ日々を健やかに

町民参加型の各種スポーツイベントや、バレーボールをはじめとしたスポーツサークル活動が盛んに行われるなど、運動は健やかで充実した暮らしに欠かせないものとなっています。

Sporting activity

In 1990, Embetsu was moved to make townspeople become more familiar with sports. In addition to the town sports center, Embetsu is equipped with various sporting facilities such as a sports park, swimming pool and ski hill, which are used by a wide variety of sports circles and for various competitions.

さわやかスポーツ祭り





つながり合い、わかり合う 交流の輪

国際
交流

カナダ ブリティッシュコロンビア州 キャッスルガー市

遠別町とキャッスルガー市は、平成元年（1989年）6月に姉妹都市提携を結びました。遠別・キャッスルガー国際交流協会の設立を機に青少年相互訪問交流が行われています。それぞれの青少年訪問団はホームステイや施設訪問、自然体験、地域行事への参加など様々な活動を通して「海を越えた友情の絆」を深め、お互いの国の人々や文化に触れることで国際感覚を養っています。また、節目には式典が催され、両市町の首長らがお互いに訪問するなどあらゆる分野で交流を深めています。

Exchanges with sister city

In June 1989, Embetsu concluded a sister city association with Castlegar City, Canada. Since then, there have been various youth visits and cultural exchanges between the two towns. An international way of thinking is promoted in Embetsu through exchange program activities such as homestay programs, facility visits, nature activities and participation in local events by youth groups from Castlegar City, which further deepen our "ties with friends from overseas". A ceremony was held when the sister city agreement was concluded, and the mayors of Castlegar and Embetsu visited each other to further promote exchange.



● 遠別町

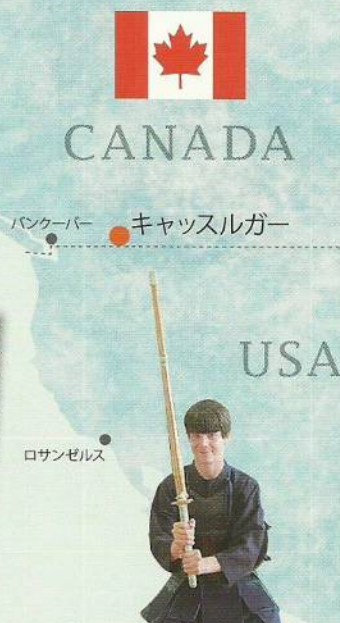
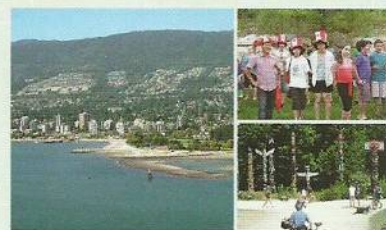


異文化と大スケールを体験

相互交流事業の一環として、中学生がキャッスルガーを訪れホームステイをしながら、相互理解を深め国際的視野を養います。

City of Castlegar Data

人口：約7,800人 位置：バンクーバーから東に約650km
平均気温：2月 約-9℃、7月 約20℃
主な産業：林業、製造業、小売業、教育



国内
交流

いつまでも変わらぬ、「ふるさと」との絆 ～遠別町ゆかりの地～ 越前市 福井県 (旧：武生市)

開拓期の明治30年、遠別町に最初に入植した団体が福井県武生の人々であったことから、平成8年12月に「国内交流を進める会」が結成され、ゆかりの地として相互交流が始まりました。その後、旧武生市が市町村合併で越前市となってからも、ルーツを同じくする人々との交流は続いています。平成10年からは小学生が相互に訪問し、遠別小学校と神山小学校による交流、ホームステイや様々な体験を通して友情を築き、楽しい思い出を作っています。



Exchanges with related city

During the settlement period, the first people to settle in Embetsu in 1897 were from Takefu City in Fukui Prefecture, and this connection was the basis of mutual exchange between Embetsu and Takefu City which started in 1996. The former Takefu City has now become Echizen City due to amalgamation, but exchange still continues through activities such as reciprocal visits by elementary school students, etc.

福井県越前市
(旧：武生市)

遠別町

つちよう
稲作地帯



遠別中学校
バス



遠別町の
カントリーサイン



遠別町の
マスコットキャラクター
「モモちゃん」



町章

オロロン
まっぷ
2/8



遠別町はここ

1 2 3 4 5 6 7 8

まっぷをとなけよう



概要

遠別町は稚内から約90km南下した日本海沿いに位置しています。日本海を流れる対馬暖流の影響により、寒冷地でありながら冬期でも比較的穏やかな気候に恵まれています。町の面積の80%以上は山林に覆われ、耕地面積は6%程です。町の南端であるピッシリ山（標高1,032m）は羽幌町の中心部とほぼ同じ緯度であり、そこを水源とする遠別川は豊饒な水を田畑や集落へ供給しています。市街地は遠別川河口の北部に形成され、公共施設・学校・商店などが利便性良くまとまっています。

これら豊かな環境を生かした農業、漁業、林業など一次産業の振興に努めながら、地元生産物の価値を高める商工業の発展を推進しています。

Embetsu Town is located approximately 90km south of Wakkanai on the coast of the Sea of Japan. More than 80% of the town's area is mountain and forest land, and approximately 6.6% of the land is cultivated. The town area is located to the north of the Embetsu River estuary, and has a convenient arrangement of public facilities, schools, and shops, etc.

遠別町民憲章

昭和57年3月11日制定

わたくしたちは、潮鳴り響く日本海の幸と緑豊かな山野に北限の美田を誇りとする遠別町の町民です。

わたくしたちは、厳しい風雪に耐えた先人の偉業を受け継ぎ、その郷土愛を心とし、ともに健やかに助け合い、未来にむかつてはたくまちをつくるため、この憲章を定めます。

- 一 わたくしたちはつくります
自然を愛し 美しいまちを
- 一 わたくしたちはつくります
幸福にくらせる あたたかいまちを
- 一 わたくしたちはつくります
健康で働ける 豊かなまちを
- 一 わたくしたちはつくります
文化を高め 明るいまちを
- 一 わたくしたちはつくります
未来に向かつてのびる
希望あふれるまちを

遠別のあゆみ

このまちを振り返る

明治20年 白幡源太郎が現在の遠別町の地に移住
明治30年 越前団体愛知団体が相次いで入植



開拓入植当時の人々

明治32年 市街地の形成／遠別郵便局開局

明治33年 第1簡易教育所（遠別小学校の前身）開校

明治34年 南山仁太郎が稲作に成功

明治36年 天塩村から分村、遠別村戸長役場設置

大正8年 遠別村が2級村へ昇格

大正12年 久光地区に最初の堰堤工事竣工

昭和11年 遠別駅が開駅（同62年廃止）

昭和21年 開基50周年を迎える

昭和22年 村立遠別中学校設立

昭和24年 町制施行により遠別町となる

昭和28年頃までニシン漁が盛んに営まれる

昭和33年 人口8,957人と最高人数を記録する



大正初期の市街



昭和32年頃の市街



遠別小学校（昭和30年頃）



遠別駅

昭和39年 旭地区で天然ガス探掘開始

昭和43年 富士見ヶ丘公園造成／ホタテ稚貝放流開始／正修地区部落解散

昭和50年 日帰り保養研修施設「健民センター」完成（現在の旭温泉）

昭和53年 北海道遠別農業高等学校（全日制）が誕生

昭和57年 水田のほぼ全面積をもち米品種へ転換

昭和63年 役場新庁舎完成／第1回エンベツふれあいマラソン大会開催

平成元年 キヤッスルガー市と姉妹都市提携

平成3年 特別養護老人ホーム「友愛苑」開設

平成4年 「とんがりかん」営業開始

平成8年 生涯学習センター「マナビ・21」完成

平成9年 開基100周年を迎える

平成23年 町全域に光ファイバー網整備、テレビ電話を全戸に貸与

平成25年 広報えんべつ復刻版第3巻、第4巻発行



海と大地に育まれ
人の温かさを感じて暮らす
みんなでつくる遠別の未来は
笑顔と希望に満ちている



遠別町
マスコットキャラクター
ももちん



まちの人気者 ももちん

ももちんは遠別町公式のマスコットキャラクターです。町内外のイベントや子どもたちとのふれあい行事などに積極的に参加し、その可愛らしさで地域の人気者になっています。20歳の記念にはイメージソング「やっぱりももちん」のCDも作られました。これからも遠別を愛し、遠別の元気を願って活動し続けます！

プロフィール

1992年(平成4年)
夏ごろ生まれました
2012年に20歳になりました！

性別は現在調査中
遠別町の森の中に
暮らしています

ツイッターやフェイス
ブックでももちんが情
報発信中です！



稚内市

遠別町

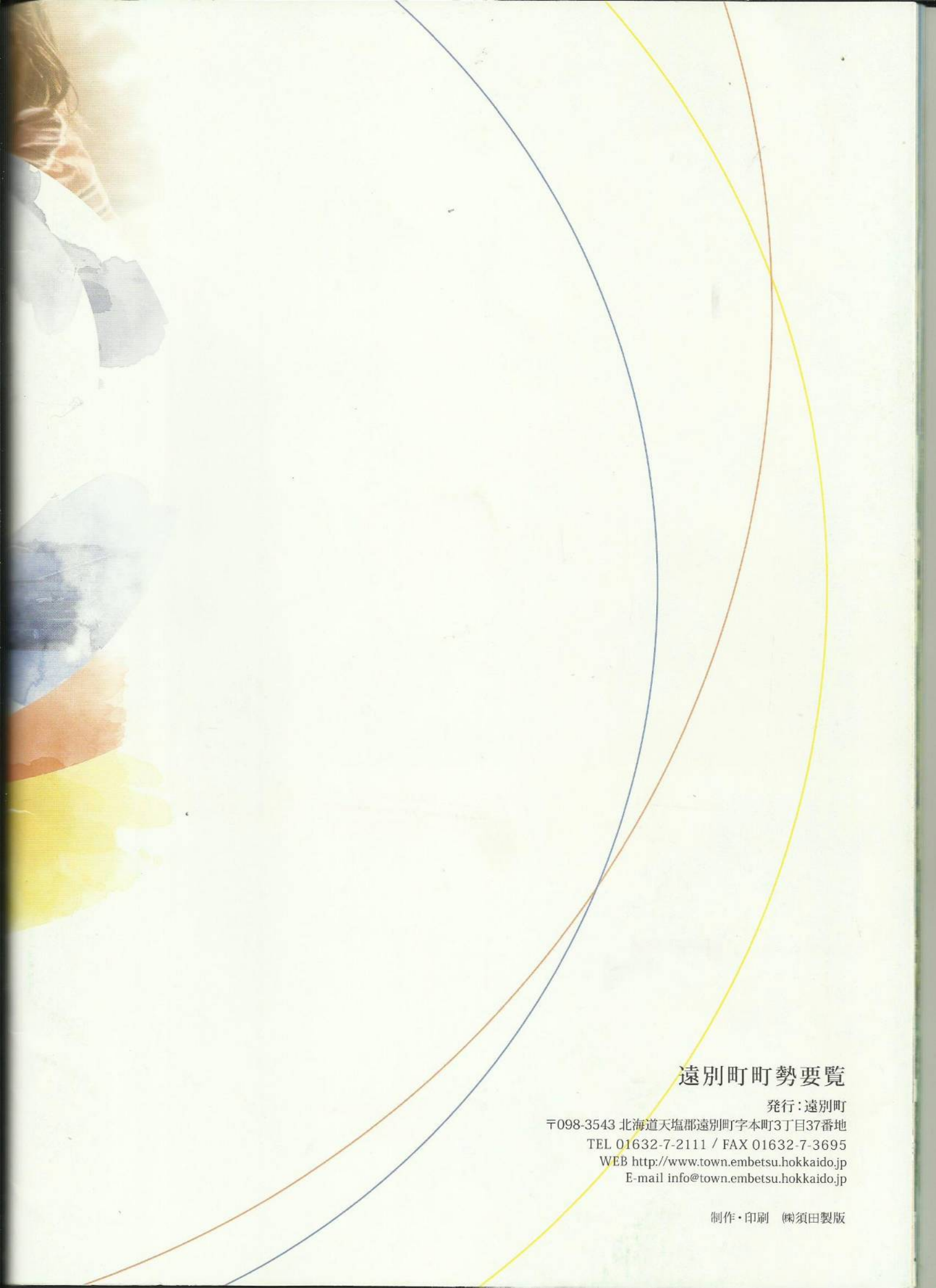
留萌市
留萌支庁
旭川市
札幌市



遠別町DATA

緯度 44.43度
経度 141.47度
(遠別町役場の位置)
面積 590.86 km²
(東西約27km、南北約51km)
国道 232号線
札幌から車で約4時間
稚内から車で約90分





遠別町町勢要覧

発行：遠別町

〒098-3543 北海道天塩郡遠別町字本町3丁目37番地

TEL 01632-7-2111 / FAX 01632-7-3695

WEB <http://www.town.embetsu.hokkaido.jp>

E-mail info@town.embetsu.hokkaido.jp

制作・印刷 ㈱須田製版